

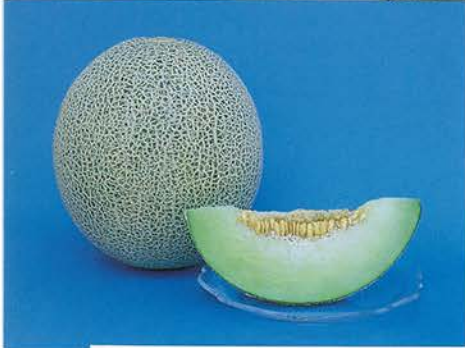
つる割病・うどんこ病抵抗性、高糖度で貯蔵・輸送性の高い緑肉種

ハウス・トンネル春作這栽培用

注 つる割病菌レース0, 2に抵抗性  
(レース1, 1・2yには罹病性)

# ホームメロン タカミ

特性と栽培方法



第1図 標準作型

地域	月	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
西南暖地 ハウス這栽培	種	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	定植	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東海・関東 ハウス這栽培	種		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	定植		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東北・北海道 ハウス 這栽培	種			○	○	○	○	○	○	○	○	○
	定植			○	○	○	○	○	○	○	○	○
東北・北海道 大型 トンネル	種				○	○	○	○	○	○	○	○
	定植				○	○	○	○	○	○	○	○

○は種 ○定植 ●交配 ○収穫

公益財団法人 園芸植物育種研究所

〒270-2221 千葉県松戸市紙敷 2-5-1 TEL.047-387-3827 FAX.047-386-1455

ホームメロン

# タカミ

〈特性と栽培方法〉

## 育成経過

アムス、デリシイに次ぐ品種として、より栽培適応性が広く、糖度、肉質の安定した耐病性ネットメロンを目標として育成した品種で、1990年に命名発表した。  
育成素材としては、アールス×ロッキーフォードの固定系、アムスの固定系、園研2号（つる割病抵抗性台木用品種）、台湾導入系を使い育成した。品種名「タカミ」は貴味を意味する。

## 品種特性

- つる割病（フザリウム）、うどんこ病に抵抗性で、生育後半の草勢が安定する。つる枯病（キャンカー）にも強い。
- 雌花の着生は安定し、低温着果性も高いので、みつ蜂交配で安定した着果が得られる。
- ネット発現期、成熟期の裂果少なく、商品化率が高い。
- 果形はやや腰高、アムス、デリシイよりやや大果となり、果重は1.2~1.5kg、果皮は濃緑色でデリシイよりやや密にネットが出る。
- 果肉は緑色で厚く、しまりよく、発酵しないので、遠距離輸送が可能である。
- 肉質は収穫時には硬いが徐々に軟化し、収穫後5~10日の間が食べ頃で適食期間が長い。
- 標準糖度（Brix） 15~16%
- 成熟期間
 

九州~関東	55~60日
東北・北海道	50日前後

## 栽培の要点

■作型と栽培様式 関東以西ではハウス、東北・北海道ではハウスまたはトンネル（被覆資材270cm以上）の春作這栽培に適し、作型は第1図を、栽培様式は子づる2本仕立、1つる2果、株4果穫りを基本とする。

■標準施肥（成分kg/10a）

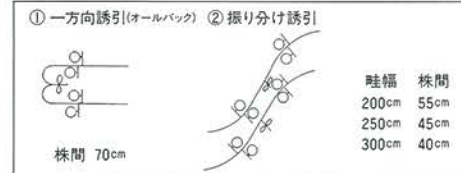
N	10~12kg
P	20~25kg
K	12~15kg
Ca	50~70kg
完全堆肥	2t

■誘引方法と株間 第2図を基本とする。  
■定植と温度条件、高畦マルチ栽培とし、定植時の温度条件は、地温は地下20cmで18℃以上（最低15℃以上）、最低気温10℃以上を維持することが必要である。

■着果節位と整枝 第3図を基本とする。  
■着果方法 みつ蜂交配を原則とする。みつ蜂が使えない場合は筆交配、人工交配とする。

■定植後の温度管理 昼間の気温は晴天日で30℃、曇雨天日で25℃前後とする。最低気温は定植から交配期前までは12~14℃、交配期から果実の肥大期（開花から約40日間）14~16℃を目標に管理する。

## 第2図 誘引方法と株間

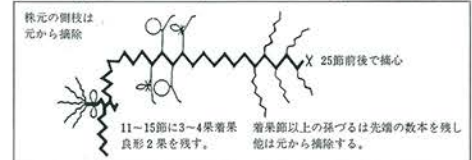


■灌水 鶏卵大からネット発生前までが最も灌水の必要な期間で、その後肥大の終了する開花後40日目くらいでは完了する。

■収穫・出荷 開花後日数、果皮色の変化、結果枝の葉の褐変等が収穫期の目安となるが、最終的にはへたが緑色から白黄色になり、離層が発現し始めた時が収穫適期である。収穫時の果肉は硬く、軟化して食べ頃になるまで4~5日を要する。食べ頃は果実の側面を押してやや軟らかくなった時で、その後数日間が適食期となる。

■病害虫対策 つる割病（フザリウム）、うどんこ病に抵抗性で、接木、防除の必要はない。つる枯病（キャンカー）にも強いが、その他の病害虫と同様に通常の防除が必要である。

第3図 着果節位と整枝（子づる2本仕立、株4果穫り）



- 株元の数葉は交配期前に摘除し通風、日当りを良くする。
- 生育後半に伸びてくる枝で、特に強いものは先を止める程度とし、元から摘除するような強整枝はしない。
- 自然着果した果はその都度摘果する。